
哀と小鳥

桜実保乃佳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

哀と小鳥

【Nコード】

N2775N

【作者名】

桜実保乃佳

【あらすじ】

ある日、哀は道端で怪我をしている小鳥を見つけて…

8月18は哀ちゃんの日なので…！

初めて動物関係にしてみました！！

ある日、私は学校の帰りで江戸川君や吉田さんたちと別れた
ホントは公園でサッカーの予定だったんだけど
突然、雨が降り出して結局中止になった
まあ、今日の朝、天気予報で

雨が降るかもしれないから傘を持っていったほうがいい

みたいなコト言ってたから持っていった…

結局正解。

今日は学校帰りに夕食のおかずを買いに行く予定だったから
どっちにしる今日のサッカーはパスする予定だった
買出しに行つて帰る途中だった

「…???

何かしらあれ…。」

私が見た先には何か小さいのがあった
近寄ってみると

「小鳥…のヒナ。」

小鳥のヒナが道の片隅で必死に動いていた
パイパイと小さい声で鳴いている

何かしらこの鳥の種類

でも何か怪我をしているような感じがした

1回小鳥を抱いてみた

逃げなかったから体力が消耗してるか

ドコかが怪我をして動けなくなったかだと私は思った
1回小鳥の体を見てみた

「羽。。。」

羽のところが怪我していた

このまま、放つて帰るのも可哀相だし

そう思った私は

小鳥を抱いて家に帰った

「ただいま。」

そういつて扉を開けた

その先には

「よう!!!」

灰原。

遅かったじゃねーか。」

「工藤君。」

何でいるの?」

江戸川コナン「工藤新一がいた

何でいるのかと思ったけど

「スケボアの修理で博士に来なさいって言われてたわね。

で、博士は??」

辺りを見回しても博士はいない

「スケボー直したはいんだけどよ。」

何かまだ修理されてない部分があったって言って急いで修理するから待つてろった言われたんだ。」

へえ。

博士もたまにはドジるのね

「んで、オメー片手に何持つてんだ？」

何…ってモノ扱い

でもココからは小鳥は小さいし怪我であまり動いてないから物に見えてもおおかしくないわね

「怪我した小鳥を偶然見つけたのよ。」

可哀相だから手当てしてあげようと思って。

だってココの近くには動物病院がないから

小鳥の怪我の手当てくらいなら私も出来るしね。

じゃ、私、地下の研究室にいるから、ゆっくりして行ってね？」

私はそういうと

買い物袋を置いて地下の研究室に向かった

今日の料理当番は博士

変なモノ作らなきゃいいけど

私は小鳥の手当てをした

大して大きな怪我ではなかったから

長くても4・5日くらいで治る

でも何か渡り鳥っぽい

渡り鳥のシーズンはもう終わってしまっているし

でも育てるって言って博士は承知するかしら？
なんて思いながら私は小鳥を眺めていた

そして夕食

地下の研究室からリビングに行く博士は夕食の準備をし終えて
私に来るのを待っていた
いただきます と挨拶をして食べ始めた

「ねえ、博士。」

「何じゃ？」

「哀君。」

言ってもいいわよね

「今日、道端で怪我している小鳥を見つけて手当てをしたんだけど
その小鳥しばらくその…出れないのよ。」

渡り鳥で渡り鳥のシーズンは終わっちゃってるから…。

それでその「

「飼ってもいいぞい。」

哀君がちゃんと世話をするなのう。

ワシは構わんからな。

大事に育ててやりなさい。」

私は嬉しかった

夕飯を食べて

研究室に降りていく

小鳥のために一応、隔離しておいた場所で

小鳥は少し元気になっていた

「これからあなたと暮らすのね。」

名前を考えなきゃいけなくなっちゃったわね。
あなたは…

ピッチ…

ヨロシクね??
ピッチ。」

F i n

(後書き)

ピッチというのは過去に私が飼っていたセキセイインコの名前なんです！

何か懐かしくなりました

感想・評価・駄目だし等待着ってます！！

平成22年8/18 Happy & Lucky

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2775n/>

哀と小鳥

2010年10月9日13時48分発行